

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（*③企08）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08）の一環として実施した。詳細は、67頁を参照。

平成25年版『日本美術年鑑』 刊行事業・出版事業『美術研究』（調査・研究成果の公開）（⑥企09-14-4/5）

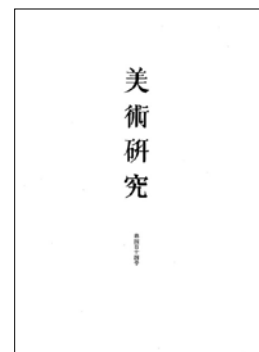
『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。企画情報部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成25年版は、B5 426ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



『美術研究』

1932（昭和7）年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、80年以上にわたり、日本・東アジアの古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文、図版解説、研究ノート、書評、展覧会評、図版解説、研究資料を掲載している。本年度は413号、414号、415号を刊行した。出版に際して、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。



無形文化遺産部出版関係事業（⑥無04-14-4/5）

『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財に関する研究論文、調査報告、資料などを掲載している。



『無形民俗文化財研究協議会報告書』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第9回にあたる本年度は「地域アイデンティティと民俗芸能」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



『保存科学』54号の出版 (⑥保修09-14-4/5)

国立文化財機構所属研究員等による文化財の保存と修復に関する科学的論文や報告を掲載している。54号には報文4本、報告14本を掲載した。



第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書 (⑥企11-14-1/1)

本書は、平成26年1月10日から12日までの3日間にわたり開催された第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「「かたち」再考—開かれた語りのため—」の報告書である。本書には、美術史研究者だけでなく考古学や建築学、国文学など「かたち」に関係する様々な分野の研究者を集めて行われた開催プログラムに従い、趣旨説明・基調講演から、3つのセッション、そして最終日に開催されたラウンドテーブルまでの全貌が克明に記録されている。2014年12月刊行。本文376ページ。各セッションの英文概要、外国語発表の原文も収録する。



『大徳寺伝来五百羅漢図』 (①企05の一環として実施)

本書は、中国・南宋時代に寧波近辺で全100幅が制作され、京都・大徳寺に伝来する「五百羅漢図」に対する奈良国立博物館との共同調査報告書である。本調査については2011年に『大徳寺伝来五百羅漢図銘文調査報告書』として一部を報告したが、本書ではこれをさらに大幅に増補改訂し、論文・参考資料を追加・加筆のうえ、高精細カラーの大型図版で収載した。2014年6月刊行。思文閣出版 (〒605-0089 京都市東山区元町355、電話075-751-1781)、B4判、312ページ、本体価格50,000円(税別)

